

同時記者発表
高松経済記者クラブ 高知県政記者クラブ

令和4年10月14日
四国地方整備局港湾空港部

「みなと」で海の森が創出！

～須崎港で藻場が創出。生きもの生息場、CO₂吸収源として期待！～

四国地方整備局港湾空港部では、須崎港（高知県）で整備中の防波堤背後の浅場を活用し、平成27年度より、生物共生機能（グリーンインフラ）を取り入れた港湾整備を目指した実証試験に取り組んできました。

実証試験により創出された藻場は、生きもの生息場や、ブルーカーボンによるCO₂吸収源として期待されます。

- 須崎港は、土佐湾のほぼ中央に位置し、太平洋に開けた天然の良港である一方、海岸形状がリアス式であることから、過去に幾度となく津波による大きな被害を受けてきたところです。
- そのため、津波からの被害を軽減すべく、津波防波堤を整備。現在は、東日本大震災の教訓をもとに、津波防波堤を粘り強い構造とする補強対策を実施しており、その結果、防波堤背後に浅場が出来ています。
- その浅場を活用し、平成27年度より鉄鋼スラグ※1を用いた環境改善方策の実証試験を実施した結果、藻場が創出。周辺海域では、磯焼けによる藻場の消失が見られるなか、海藻（南方系ホンダワラ類、テングサ属等）が繁茂し、様々な生物の生息が確認されており、藻場再生に伴う生物多様性維持にも寄与することが期待されています。
- また、ブルーカーボン※2の観点から、創出された藻場（★面積：2,034m²）が吸収するCO₂量を試算したところ、年間約1.3トン吸収されることが見込まれる結果となりました。この吸収量は、40年生のスギが1年間で吸収する量に換算した場合、約150本分※3の吸収量となります。

※1 鉄鋼製造工程において副産物として発生。主にセメント材及び陸域で再利用されている一方で、海域への利用も促進されている

※2 海藻や海草、植物プランクトンなど、海の生物の作用で海中に取り込まれる炭素

「海の森 ブルーカーボン CO₂の新たな吸収源」国土交通省港湾局より

※3 林野庁HP 地球温暖化防止に向けて「トピックス：森林はどのぐらいの量の二酸化炭素を吸収しているの？」より

○詳細は別紙をご覧ください。

【問い合わせ先】

四国地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課 電話 087-811-8334（直通）

高松市サンポート3番33号 高松サンポート合同庁舎北館 8階

海洋環境・技術課長 岡崎 裕

○ 課長補佐 小銭 貴一郎

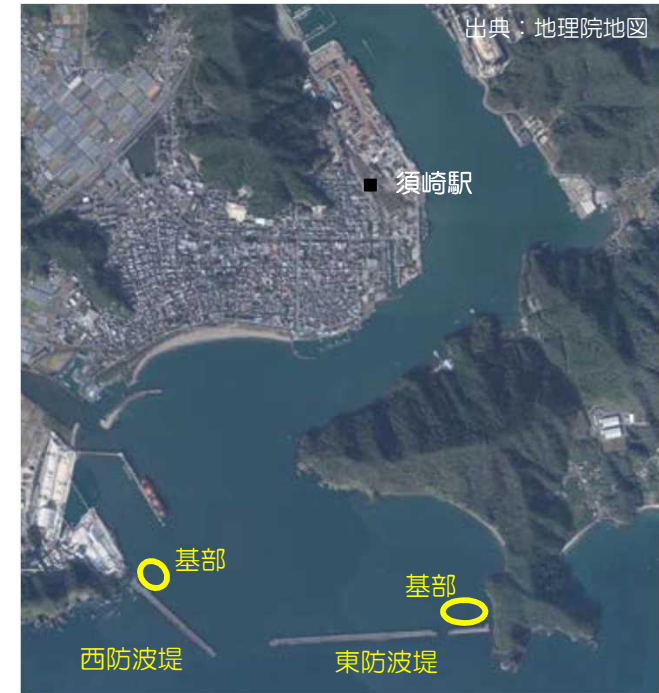
防波堤改良と実証試験により海の森が創出！脱炭素社会へ！！

高知県の須崎港において、防波堤改進黨業(粘り強い構造への補強対策)により出来た浅場をモデルフィールドとして、鉄鋼スラグを用いた環境改善方策の実証試験に取り組んできました。長年の実証試験により、海藻の群落である藻場の分布拡大が見られ、改進黨業により出来た浅場が藻場創出の場として有効的であることが分かりました。

試験にて創出された藻場については、生きもの生息場や水質の浄化に寄与する他、CO₂の新たな吸収源として近年、注目されている「ブルーカーボン」にも該当しており、本結果を参考とした藻場創出に資する取り組みが他の港にも広がることで、将来の脱炭素社会へと繋がる生物共生型港湾構造物の普及が期待されます。

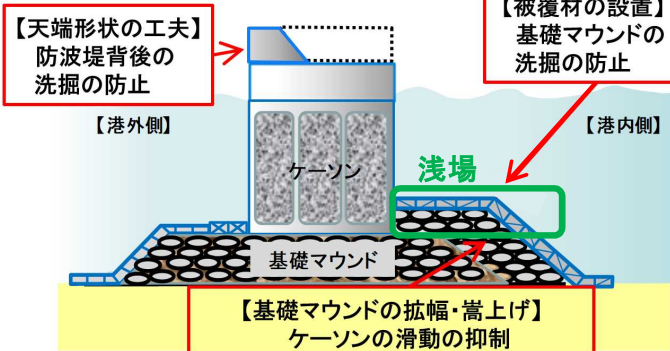
～概要～

- 試験場所：高知県須崎市_須崎港湾口地区防波堤（西防波堤及び東防波堤）
- 実施期間：平成27年度（実証試験開始）～令和4年度 ※今後はモニタリング等
- 試験内容：環境調査、鉄鋼スラグを活用した藻礁基盤の設置、海藻移植、食害対策等
- 鉄鋼スラグ：鉄鋼スラグ水和固化体を使用
- 藻種：南方系ホンダワラ類、テングサ属等
- CO₂吸収量(試算)：1.3トン/年間（令和4年6月現在）
※対象は西防波堤基部及び東防波堤基部の2,034m²

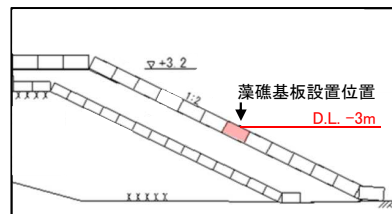
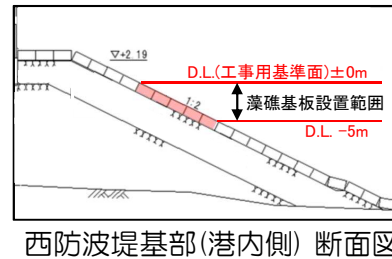


須崎港(高知県)

【粘り強い構造】



例) 粘り強い構造への補強対策



試験前



試験後



西防波堤基部の藻場に集まった魚類



東防波堤基部の藻場に集まった魚類